



獨協医科大学

〒321-0293
栃木県下都賀郡壬生町北小林880
TEL : 0282-86-1111 (代表)

教育基本理念と教育目標

公衆衛生学教育を通じて、人々から信頼される人間を育成すること

- 社会人・医師としての基本的な素養・プロフェッショナリズムに基づいた行動ができる
- 公衆衛生の考え方とその方法論を理解し、広く温かく鋭い視野で考えることができる
- 公衆衛生と社会についての問題意識をもち、みずから調べ、考察と提言を行うことができる

主な研究内容

- 循環器疾患・生活習慣病の疫学と予防プログラム開発
- 中小企業における産業保健
- 臨床疫学研究
- 超世代予防医学研究
 - ・ 妊産婦死亡を減らすための研究
 - ・ 思春期、妊娠・育児を契機にした予防医学研究
 - ・ 子どもの健康関連要因の解明(周産期、母子関係、しつけ、栄養の視点から)



同門の先生方との温かい交流が楽しみのひとつ

獨協医科大学においては、社会医学系の分野が細かい縦割りになっており、医学部と看護学部を合わせて、公衆衛生学の広範な領域の教育・研究のほとんどを当講座が担っています。そのため、講座の教育・研究を支えるスタッフに6人の枠

「独り立ち、力合わせる」 教育・研究体制

臨床研修を終えた若い医師たちが公衆衛生学の重要性を思い出して、当講座のドアを気軽にノックしに来てくれることが目標です。

があり、現在は教授の私と准教授2人、助教2人の5人体制(もう1人は募集中)です。スタッフには健康教育、疫学、統計、栄養、実験などの専門家がそろっており、おのの得意分野を生かしながら、力を合わせることで大きな発展をめざしています。またお互いに学び合うことで一人ひとりが複数の専門領域を身につけ、ほかの人にはできない独自の発想や実践をすることも重要と考えています。

公衆衛生学講座は、基礎医学と臨床医学、大学と社会の間の調整役であること認識しています。さまざまな分野との間に橋を架けることをめざして、他大学や臨床科との共同で、住民健診における循環器疾患予防、周産期合併症予防、産業保健領域の大規模コホートなど、多岐にわたる研究を実施しています。また、臨床疫学研究への参画・支援や、放射線の健康影響に関する疫学研究(福島県立医大や放医研との共同)、超世代予防医学(2世代後の健康社会をめざした研究)、人間発達と教育に関する社会医学的研究にも精力的に取り組んでいます。

ようこそ!
わが研究室へ⑩



研究について熱く語る筆者

獨協医科大学

医学部公衆衛生学講座

教授 小橋 元

「学問を通じての人間形成」 を旗印に

獨協医科大学は、1973年に獨協学園88周年を記念して栃木県壬生町に開学しました。そのルーツは、1881年に設立された獨逸学協会にさかのぼります。獨逸学協会は、ドイツ文化を摂取し、日本文教の興隆を図る目的で、1883年に獨逸学協会学校を設立しました(初代校長西周、第2代校長桂太郎、第3代校長加藤弘之)。

第二次世界大戦後も、後の獨協大学初代学長となる天野貞祐らの同窓生により存続し、1947年に獨逸学協会の名称が財団法人「獨協学園」に変更され、1948年に新制の獨協中学校・高等学校が発足しました。1964年には獨協大学が埼玉県草加市に開学し、初代学長が唱えた「学問を通じての人間形成」の精神は今も引き継がれています。

獨協医科大学は、この建学の精神に則り、「患者さま及びその家族、医療関係者をはじめ、広く社会一般の人々から信頼される医師を育成すること」を教育基本理念としています。そして、学生と教員とが顔が見え、心が通う、とてもよい距離感で勉学に励んでいます。

小橋教授からのメッセージ

公衆衛生を通じて健康な社会を実現するためには、「教育」こそが重要だと考えています。当講座では、人の生(生命、生活、人生)を衛(まも)りたいという情熱と、人と協同する力を大切に、「人材の育成」を行っています。私は人と話をするのが大好きで、教室は明るく自由な雰囲気にあふれています。資格や経(ふ)験は問いません。まずはお気軽にご相談ください。風光明媚な壬生で力を合わせて一緒にやりましょう!

医学部公衆衛生学講座は、このよ(よ)うな本学の建学精神に基づき、講義や実習、課外活動や国家試験対策、臨床研究指導を含めた医学部の卒前卒後教育はもとより、他学部向けの疫学・公衆衛生学講義や研究指導など、公衆衛生学を通じた「人づくり」プロフェッショナル教育」を幅広く展開しています。10年後に